

津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

# こどもの病気対策法⑧9

— お薬の飲ませ方・使い方 薬の何故？ —

そうごう薬局 津久見店 管理薬剤師 橘 周平

子供が薬を飲んでくれない——。

そんな悩みを経験した親は少なくないのではないのでしょうか？

服薬の必要性を理解できない小児へ薬を与えるということとは容易ではありません。

薬を嫌がらないために、オブラートやゼリーなどの服薬補助製品の利用や、アイスやココアなどの食品に混ぜるなど、多くの選択肢があります。が、虫菌の危険性や、その子に合った服用方法かどうかは、十分考慮する必要があります。

小児が薬を嫌がる理由で多いのが、苦みです。

しかし、近年製薬企業は、飲みやすさに対する研究に力を入れており、以前に比べれば、飲みたがらないという小児は減っているように感じます。

しかし、抗生物質を例にとると、適切に服用されなければ苦みが強く出てしまうことがあります。

これは服用する際の液体のpHが関係していて、酸性の液体(オレンジジュース、スポーツドリンクなど)では、抗生物質の苦みを抑えるためのコーティングが溶けて、薬本来の味がでてしまうためです。

薬を服用するときは「何と一緒に服用するのか」を意識していただきたいです。

さて、これからの季節、関心が高まるのが高熱時に使用する坐薬やインフルエンザについてかと思われます。

乳幼児に坐薬が処方された際、親が悩むことで多いのが、途中排泄に関するものです。「排出された坐薬の再挿入」「新しい坐薬の挿入」「坐薬の使用中止」——。

どれが正しい判断かは一概には言えませんが、坐薬が出てしまった場合の対処としては、坐薬が出てくるまでの時間・坐薬の形状・熱の下がり具合などをみて判断する必要があります。

冬場の急な発熱時、市販の

風邪薬で様子を見るといこうとはないでしょうか？

インフルエンザは一般の風邪とは違い、症状がでてから「48時間以内」の治療開始が重要となります。

これは、インフルエンザウ

## 医療機関受診には お薬手帳を携帯しましょう!!

- ①処方された薬の名前や飲む量、回数、投薬日数など記録
- ②異なる医療機関では、飲み合わせの確認が必要
- ③診察券、保険証、お薬手帳はセットで持参!!

### 活用方法

- ・市販薬購入の際にも活用
- ・薬でよくない症状が出た時に記録
- ・薬が余剰に残った場合、記録をする



Miyai Nagano 2015.12.12

イルスの増殖のピークが、症状がでてから48時間以内となるためです。したがって、インフルエンザかどうかの診断、治療の早期開始のためにも、早めに受診していただきたいです。